

2023年10月12日 全8頁

## Indicators Update

## 2023年8月機械受注

民需（船電除く）は事前予想に反し2カ月連続で減少

経済調査部 研究員 石川 清香

## [要約]

- 2023年8月の機械受注（船電除く民需）は前月比▲0.5%と2カ月連続で減少した。製造業が同+2.2%と2カ月ぶりに増加した一方で、非製造業（船電除く）は同▲3.8%と、3カ月ぶりに減少した。内閣府は機械受注の基調判断を「足踏みがみられる」に据え置いた。
- 製造業では、化学工業が大幅に増加し、全体を押し上げた。非製造業（船電除く）では、多くの業種が前月から小幅に増加した中で、金融業・保険業が大きく減少し、全体を押し下げた。
- 先行きの民需（船電除く）は、均して見れば緩やかな増加基調を辿るとみている。国内のサービス消費の回復などを背景に、非製造業を中心に設備投資が増加する可能性がある。ただし、欧米での金融引き締め長期化や、中国の不動産不況などで外需が低迷し、製造業を中心に国内企業の設備投資意欲が削がれる可能性には注意が必要だ。

図表1：機械受注の概況（季節調整済み前月比、%）

	2022年		2023年						
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
民需（船電を除く）	0.3	9.5	▲4.5	▲3.9	5.5	▲7.6	2.7	▲1.1	▲0.5
コンセンサス									0.6
DIRエコノミスト予想									2.3
製造業	2.5	▲2.6	10.2	▲2.4	▲3.0	3.2	1.6	▲5.3	2.2
非製造業（船電を除く）	▲3.2	19.5	▲14.7	▲4.5	11.0	▲19.4	9.8	1.3	▲3.8
外需	10.5	▲25.2	2.3	▲10.5	12.3	12.0	▲6.9	1.6	▲7.1

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

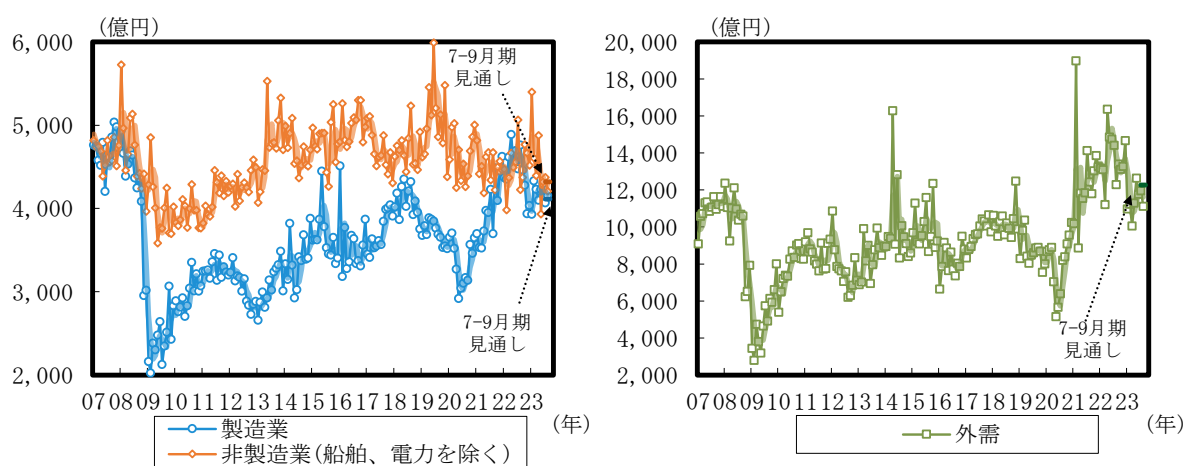
## 【総括】 製造業は増加も非製造業は減少し、全体では小幅減

2023年8月の機械受注（船電除く民需）は前月比▲0.5%と、コンセンサス（Bloomberg 調査、同+0.6%）に反して2カ月連続で減少した。内訳を見ると、製造業は前月から増加した一方で、非製造業（船電除く）は減少した。内閣府は機械受注の基調判断を「足踏みがみられる」に据え置いた。

製造業からの受注額は2カ月ぶりに増加した。化学工業が堅調で全体の増加に寄与した。非製造業（船電除く）からの受注額は3カ月ぶりに減少した。大半の業種が前月から小幅に増加した中で、金融業・保険業が大きく減少し、全体を押し下げた。

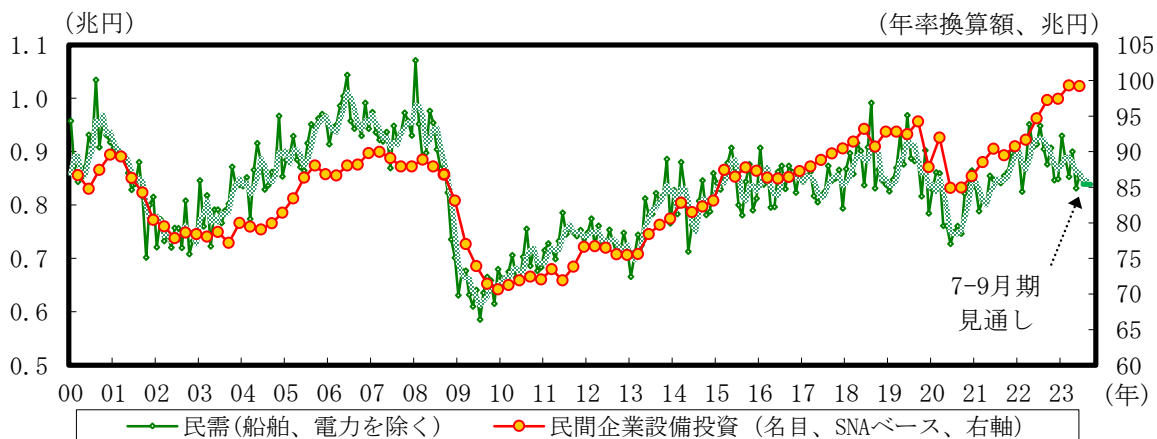
民需（船電除く）は7-8月平均で見れば4-6月期平均比▲2.2%と、6月末時点の企業の7-9月期見通し（同▲2.6%）を小幅に上回っており、見通し達成のハードルは高くない。

### 図表2：需要者別に見た機械受注額



(注) 季節調整値。太線は3カ月移動平均。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

### 図表3：機械受注額と名目設備投資（季節調整値）



(注) 太線は3カ月移動平均。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

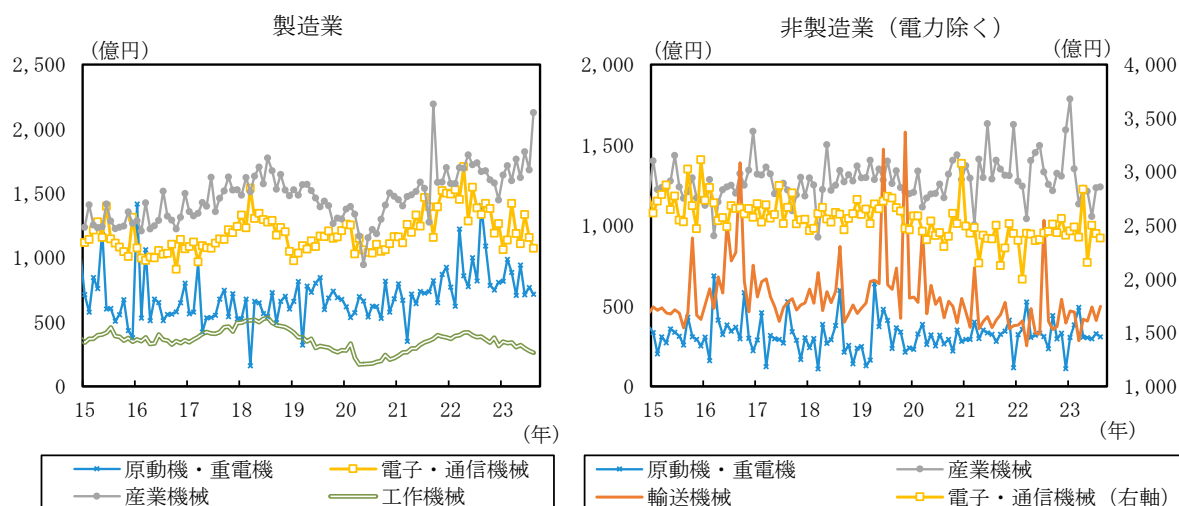
## 【製造業】機種別では産業機械が増加基調を維持

8月の製造業からの受注額は前月比+2.2%と2カ月ぶりに増加した。機種別に見ると、産業機械の増加幅が大きかった（**図表4左**、大和総研による季節調整値）。産業機械は増加基調にあり、グリーン化・デジタル化対応などの需要が旺盛とみられる。業種別では17業種中7業種が増加した。化学工業（同+206.1%）が2カ月ぶりに大幅に増加し、全体の押し上げ要因となった。自動車・同付属品（同+15.0%）は2カ月ぶりに増加したほか、はん用・生産用機械（同+4.9%）は3カ月連続で増加した。他方で、非鉄金属（同▲48.9%）は2カ月連続で減少したほか、食品製造業（同▲39.8%）は3カ月ぶりに減少した。

## 【非製造業】金融業・保険業が全体の押し下げ要因

8月の非製造業（船電除く）からの受注額は前月比▲3.8%と3カ月ぶりに減少した。機種別に見ると、電子・通信機械や原動機・重電機が減少した（**図表4右**、大和総研による季節調整値）。業種別で見ると、減少したのは11業種中2業種にとどまるが、金融業・保険業（同▲15.8%）の減少幅が大きく、全体を押し下げた。その他非製造業（同▲0.6%）は3カ月ぶりに小幅に減少したものの、均して見れば緩やかに増加している。他方で、リース業（同+113.2%）は前月からの反動もあり増加したほか、卸売業・小売業（同+16.7%）は2カ月連続で増加した。

図表4：業種別・機種別に見た機械受注額の動き



(注1) 大和総研による季節調整値。

(注2) 輸送機械に船舶は含まない。製造業の輸送機械と非製造業の工作機械受注は少額であるため図表から除外した。

(出所) 内閣府統計より大和総研作成

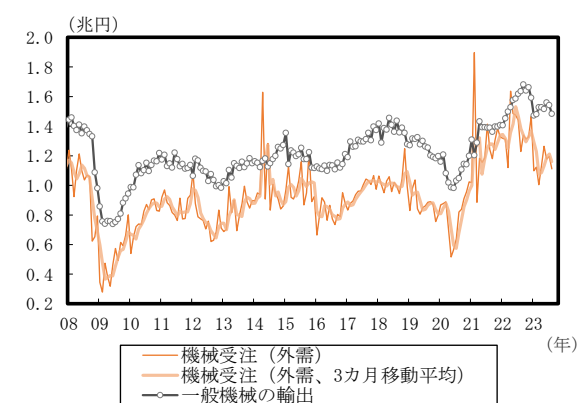
## 【外需】産業機械などの受注が軟調で、2カ月ぶりに減少

外需は前月比▲7.1%と、2カ月ぶりに減少した（図表5）。大型案件が2件あったにもかかわらず減少幅は大きく、基調は引き続き弱い。7-8月平均で見ると、4-6月期平均比▲3.1%と、7-9月期見通し（同+3.1%）を大幅に下回る水準で推移している。機種別では、原動機・重電機の減少幅が大きかったほか、輸送機械や産業機械も減少した（図表6）。他方で、大型案件の影響もあった電子・通信機械や、工作機械は増加した。

機械受注の外需動向を地域別に見る上で参考となる工作機械受注を確認すると、8月の外需は前月比+10.2%と2カ月ぶりに増加した（日本工作機械工業会、図表7、大和総研による季節調整値）。米国（同+13.7%）からの受注額は4カ月ぶりに増加した。米銀行の貸出態度の厳格化により企業の資金調達環境は悪化しているものの、景気が底堅い中で、好調な企業収益が設備投資を下支えしている可能性がある。欧州（EU+英国、同+7.4%）からの受注額は2カ月ぶりに増加した。ただし、均して見れば横ばい圏で推移している。中国（同+11.7%）からの受注額は、このところの減少が一服し、6カ月ぶりに増加した。

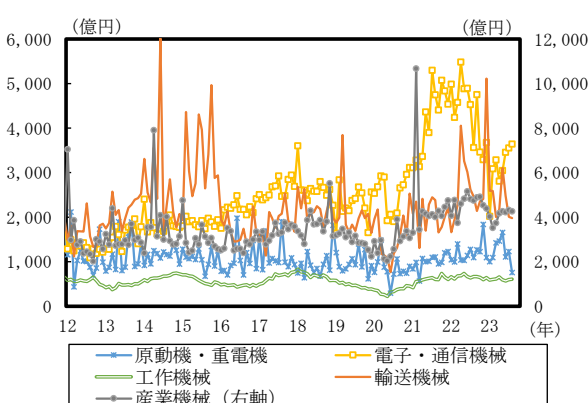
工作機械受注は2023年9月分がすでに公表されており、内需は前月比+4.4%と6カ月ぶりに増加した。外需は同+1.2%と2カ月連続で増加した。

図表5：一般機械の輸出と機械受注の外需



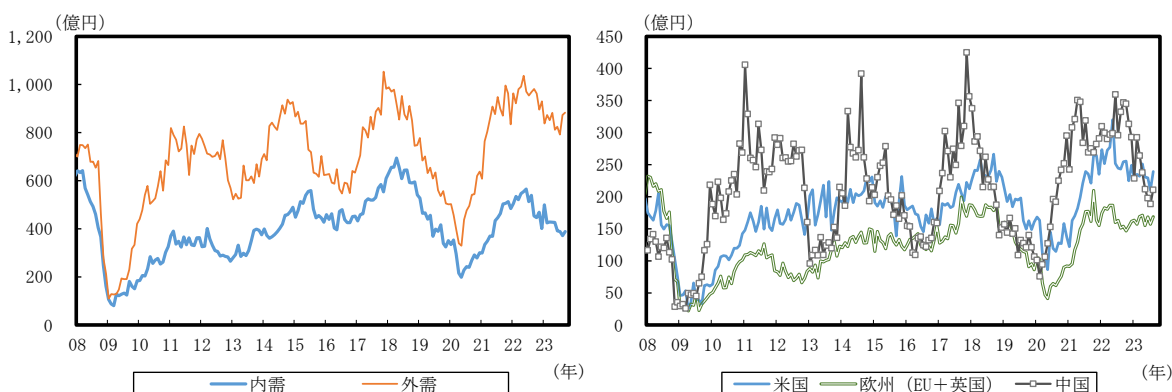
(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省より大和総研作成

図表6：機種別の機械受注の外需



(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府、財務省より大和総研作成

図表7：工作機械受注の推移



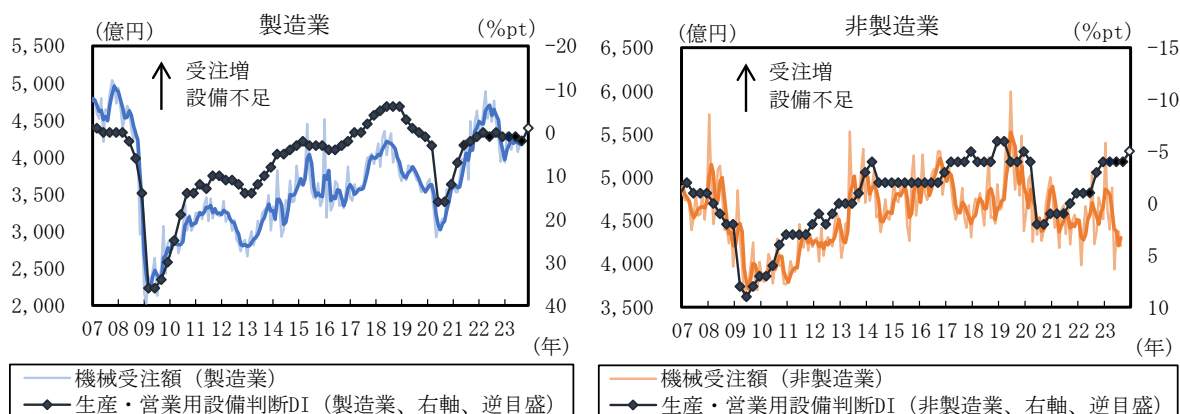
(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 日本工作機械工業会統計より大和総研作成

## 【先行き】サービス消費の回復などに対応した投資需要の増加で均せば緩やかに増加

先行きの民需（船電除く）は、均して見れば緩やかな増加基調を辿るとみている。経済活動の正常化の進展もあり、国内のサービス消費は回復が続くだろう。非製造業では、こうした動きに対応した設備投資が増加する可能性がある。ただし、欧米での金融引き締め継続や、中国での不動産不況の深刻化などにより海外需要が低迷する中、製造業を中心に国内企業の設備投資意欲が削がれる可能性には注意が必要だ。

日銀短観の9月調査における「生産・営業用設備判断DI」（先行き、全規模）を見ると、製造業（▲1%pt）・非製造業（▲5%pt）の双方で不足感が強まる見通しだ（**図表8**）。また、2023年度の「設備投資計画」（全規模、含む土地、ソフトウェアと研究開発投資額は含まない）では、製造業が前年度比+15.0%、非製造業が同+11.8%と、堅調な結果が示された（**図表9**）<sup>1</sup>。例年の9月調査と比べても高い計画が示されており、企業の設備投資意欲は旺盛とみられる。

図表8：機械受注額と生産・営業用設備判断DI（全規模）

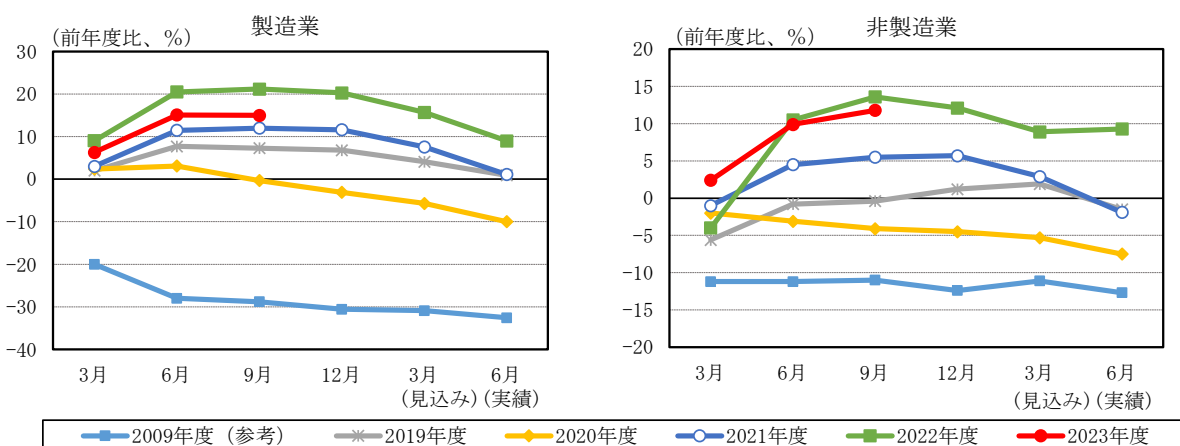


(注1) 機械受注額は季節調整値。太線は3カ月移動平均。

(注2) 生産・営業用設備判断DIの直近値は先行き、それ以外は最近。

(出所) 内閣府、日本銀行統計より大和総研作成

図表9：日銀短観の設備投資計画（全規模）



(注) ソフトウェア、研究開発投資額は含まない。

(出所) 日本銀行統計より大和総研作成

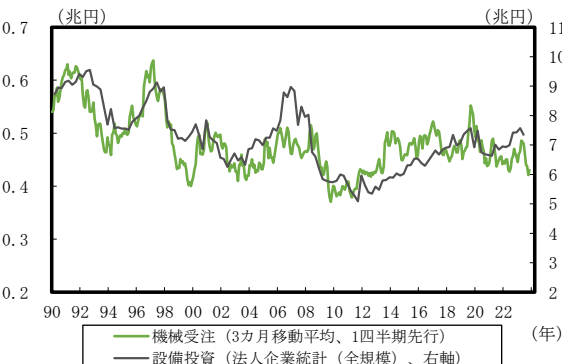
<sup>1</sup> 詳細は久後翔太郎「[2023年9月日銀短観](#)」（大和総研レポート、2023年10月2日）参照。

概況

機械受注と設備投資【製造業】（季節調整値）

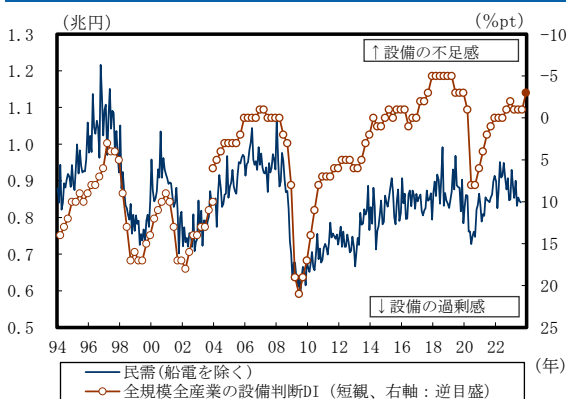


機械受注と設備投資【非製造業（船舶・電力除く）】（季節調整値）



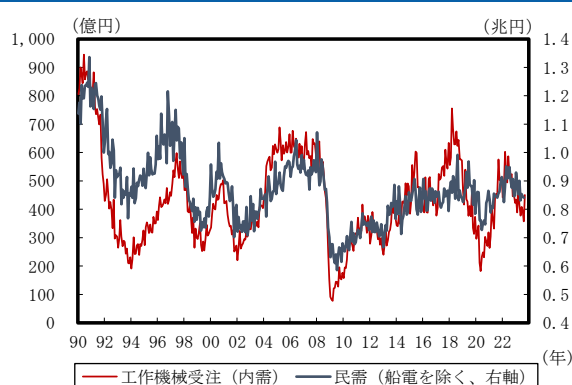
(出所) 内閣府、財務省統計より大和総研作成

機械受注（季節調整値）と設備判断DI



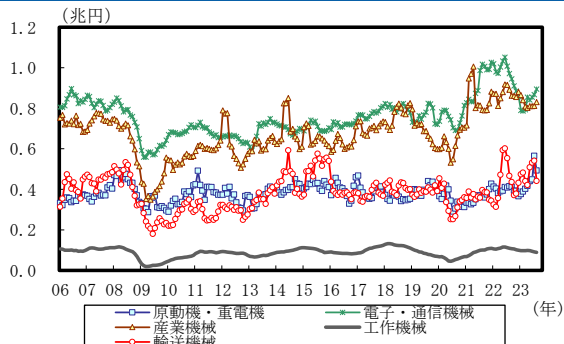
(注) 設備判断DIの段差は、統計の基準変更に伴うもの。直近は先行き値。  
(出所) 内閣府、日本銀行、日本工作機械工業会統計より大和総研作成

機械受注（季節調整値）と工作機械受注



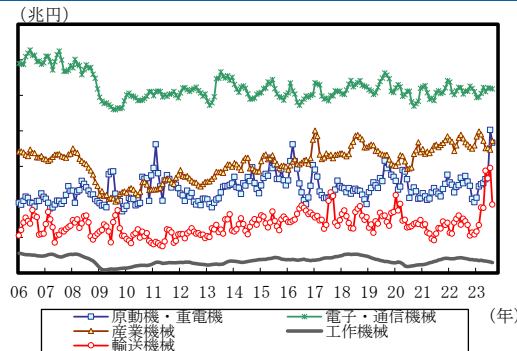
機種別の動向

機種別・大分類の受注額（季節調整値）

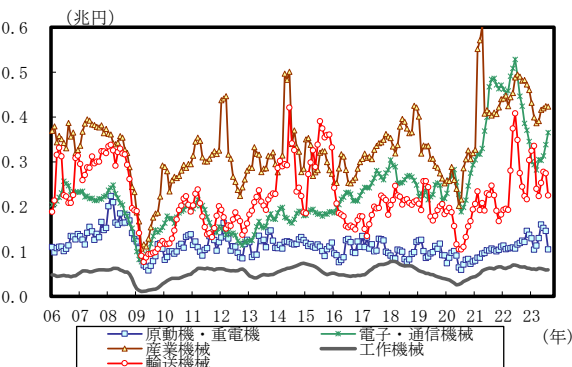


(注) 3カ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・大分類の受注額【内需】（季節調整値）

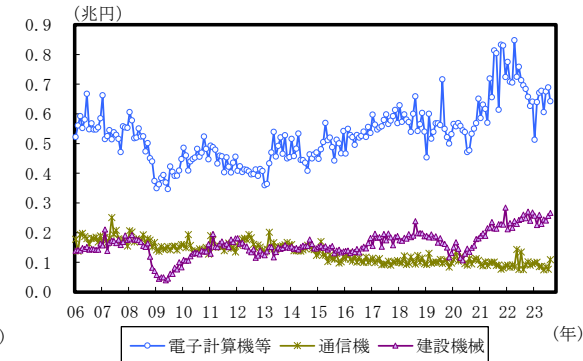


機種別・大分類の受注額【外需】（季節調整値）



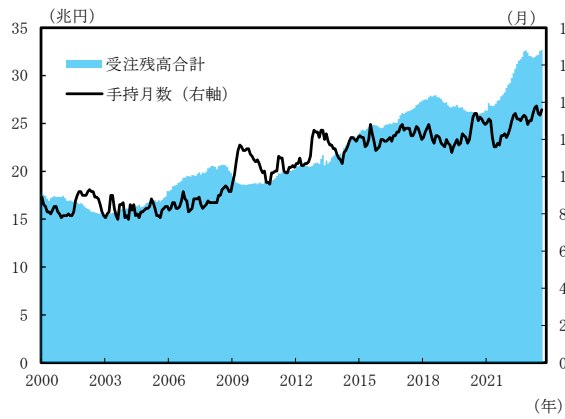
(注) 3カ月移動平均値で、季節調整は大和総研。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

機種別・主な中分類の受注額（季節調整値）

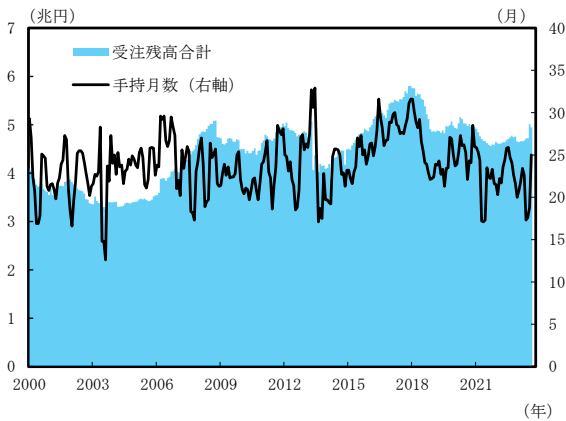


## 主要機種の受注残高と手持月数

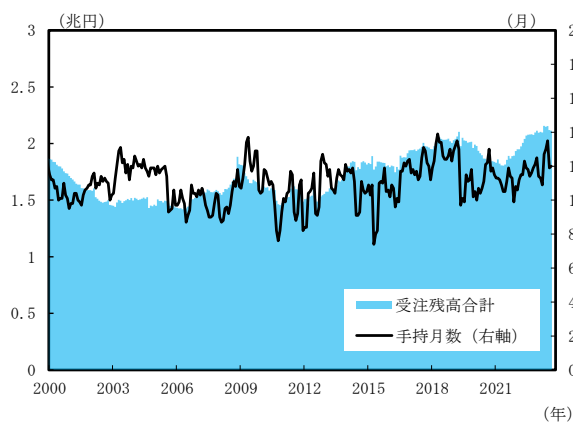
合計（船舶を除く）



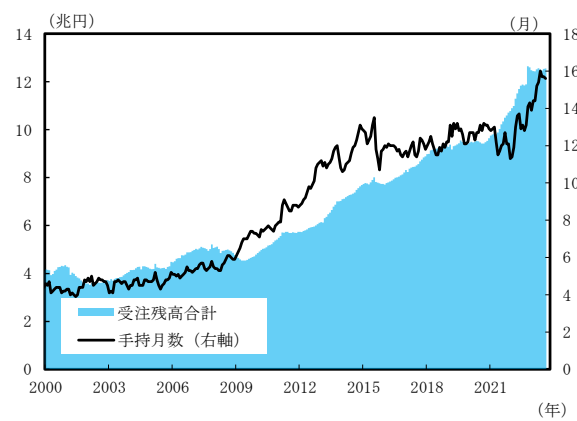
原動機



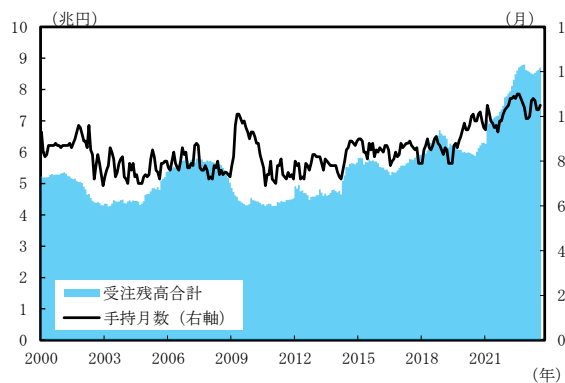
重電機



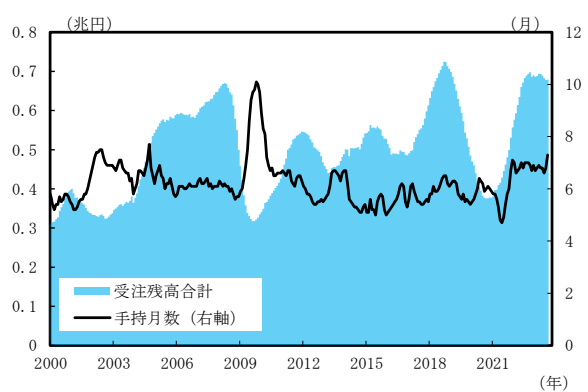
電子・通信機械



産業機械

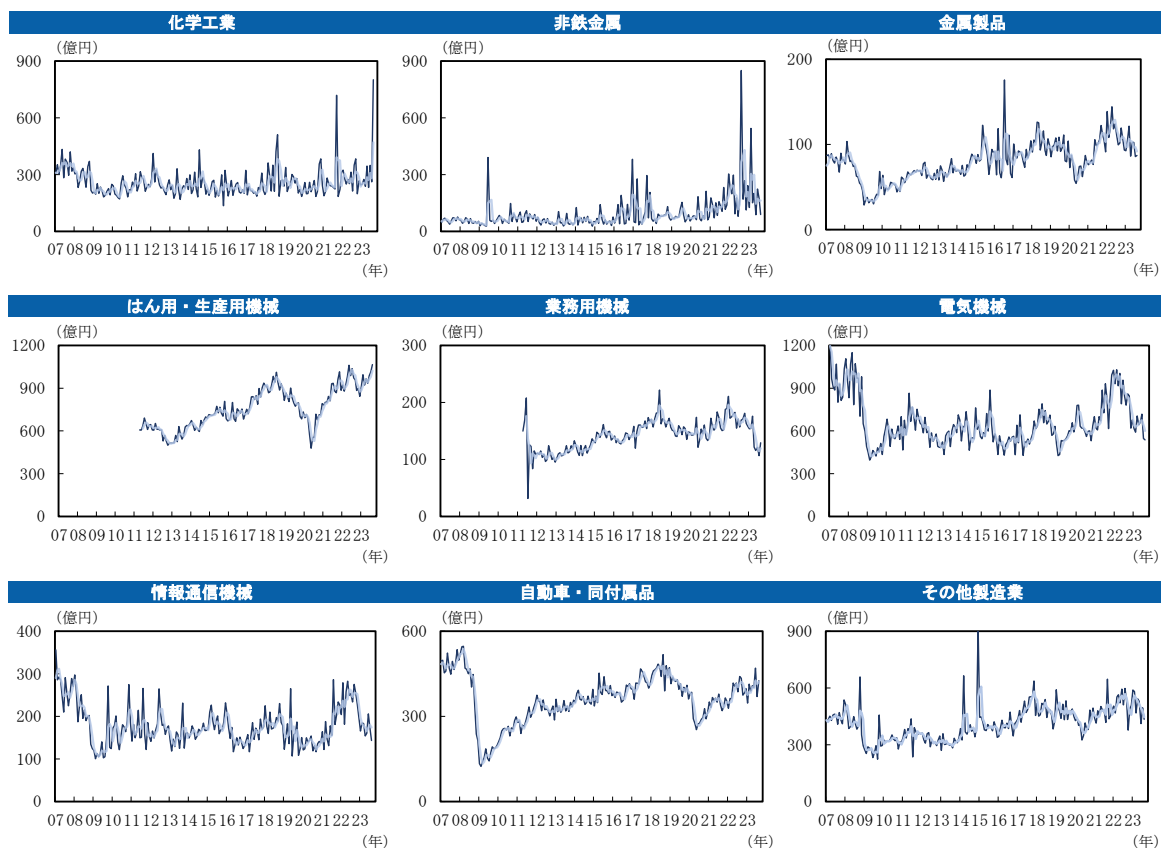


工作機械

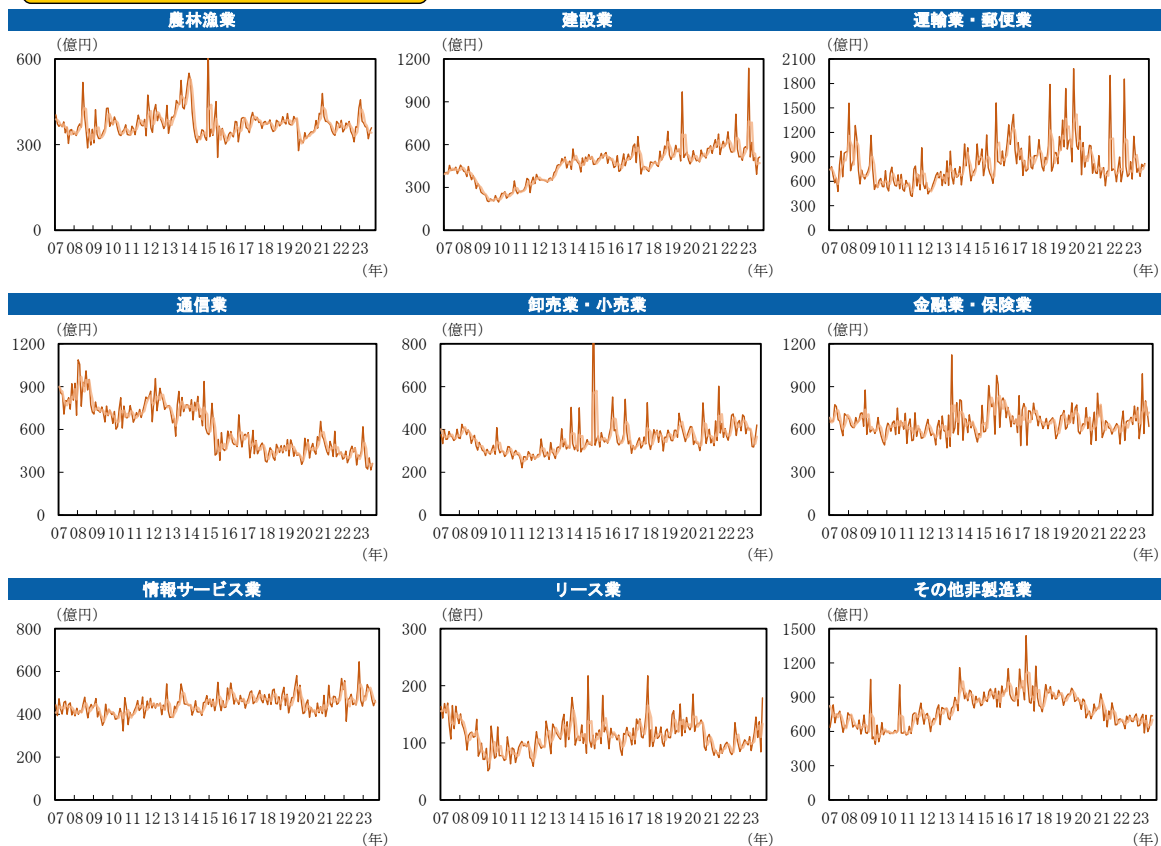


(注) 季節調整値、合計を除く受注残高の季節調整は大和総研による。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成

### 主要業種の受注額（製造業）



### 主要業種の受注額（非製造業）



(注) 季節調整値、太線は3カ月移動平均。業種分類の改定により、一部2011年4月以前のデータがない。  
(出所) 内閣府統計より大和総研作成